

令和5年度

第52回 福岡県公立小学校教頭会研究大会  
北筑後地区小学校教頭会研究大会

【研究主題】

「未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり」



浮羽稻荷神社



筑後吉井白壁の町並み

令和5年11月14日(火)

オンライン開催

配信場所：うきは市立千年小学校



福岡県公立小学校教頭会  
北筑後地区小学校教頭会

**令和5年度 第52回 福岡県公立小学校教頭会研究大会**  
**北筑後地区小学校教頭会研究大会**

**【目次】**

1	研究大会次第	1
2	ごあいさつ	2
3	令和5年度 福岡県公立小学校教頭会活動方針	4
4	令和5年度 福岡県公立小学校教頭会研究要項	5
5	研究報告（全国共通課題より）	
	(1) 【第1課題：教育課程に関する課題】	
	(福岡地区)「各学校の『つよみ』をいかした校務運営の在り方」	7
	筑紫野市立二日市東小学校 教頭 齊藤 宏之	
	(2) 【第6課題：子供の発達に関する課題】	
	(北筑後地区)「児童の自己肯定感を高める教育活動の工夫」	11
	筑前町立中牟田小学校 教頭 山下 冊	
	(3) 【第3課題：教育環境整備に関する課題】	
	(南筑後地区)「柳川を愛する子どもの育成に向けた柳川市共通実践項目の取組」	15
	柳川市立豊原小学校 教頭 松中 好江	
6	講評 福岡県教育庁教育振興部義務教育課	19
	主任指導主事 原 クミ 様	
7	講話 「管理職としての心構え ～危機管理の視点から～」	20
	講師 福岡県副知事 生嶋 亮介 様	
8	令和5年度 福岡県公立小学校教頭会役員一覧表	21
○	アンケート	22

**【日程】**

	13:00	13:30	14:00		15:10	15:35	15:45	16:15	16:25
	入室	開会行事	研究報告	講評	休憩	講話	講話	閉会行事	

# 令和5年度 第52回 福岡県公立小学校教頭会研究大会 北筑後地区小学校教頭会研究大会 次第

1 全国統一研究主題 「未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり」  
(自立・協働・創造)

2 日時 令和5年11月14日(火) 13時30分 入室(13時)

3 参加方法 オンライン 配信場所：うきは市立千年小学校

4 主催 福岡県公立小学校教頭会 北筑後地区小学校教頭会

5 後援 福岡県教育委員会 うきは市教育委員会  
福岡県小学校校長会 うきは市小学校校長会

## 6 内容

### (1)開会行事 13:30~14:00

- |          |             |     |         |
|----------|-------------|-----|---------|
| ① 開会の言葉  | 北筑後地区小学校教頭会 | 会長  | 石橋 篤    |
| ② 国歌斉唱   |             |     |         |
| ③ 会長あいさつ | 福岡県公立小学校教頭会 | 会長  | 安倍 秀樹   |
| ④ 来賓祝辞   | 福岡県教育委員会    | 教育長 | 吉田 法稔 様 |
|          | うきは市教育委員会   | 教育長 | 樋口 則之 様 |
|          | 福岡県小学校校長会   | 会長  | 黒澤 真二 様 |

### (2)研究報告 14:00~15:35

- |                                       |                  |        |        |
|---------------------------------------|------------------|--------|--------|
| ① 研究主題説明                              | 福岡県公立小学校教頭会      | 研究部長   | 藤井 龍一  |
| ② 報告者および講評者の紹介                        |                  |        |        |
| ③ 研究報告                                |                  |        |        |
| ・研究報告Ⅰ【第1課題：教育課程に関する課題】               |                  |        |        |
| (福岡地区)「各学校の『つよみ』をいかした校務運営の在り方」        |                  |        |        |
|                                       | 筑紫野市立二日市東小学校     | 教頭     | 齊藤 宏之  |
| ・研究報告Ⅱ【第2課題：子供の発達に関する課題】              |                  |        |        |
| (北筑後地区)「児童の自己肯定感を高める教育活動の工夫」          |                  |        |        |
|                                       | 筑前町立中牟田小学校       | 教頭     | 山下 冊   |
| ・研究報告Ⅲ【第3課題：教育環境整備に関する課題】             |                  |        |        |
| (南筑後地区)「柳川を愛する子どもの育成に向けた柳川市共通実践項目の取組」 |                  |        |        |
|                                       | 柳川市立豊原小学校        | 教頭     | 松中 好江  |
| ④ 講評                                  | 福岡県教育庁教育振興部義務教育課 | 主任指導主事 | 原 クミ 様 |
| ⑤ お礼の言葉                               | 筑豊地区小学校教頭会       | 会長     | 白土 秀明  |

### (3)講話 15:45~16:15

演題 「管理職としての心構え ～危機管理の視点から～」

講師 福岡県副知事 生嶋 亮介 様

- |      |             |     |       |
|------|-------------|-----|-------|
| ○ 謝辞 | 北筑後地区小学校教頭会 | 副会長 | 石井 雄児 |
|------|-------------|-----|-------|

### (4)閉会行事 16:15~16:25

- |         |             |     |       |
|---------|-------------|-----|-------|
| ① 閉会の言葉 | 北九州地区小学校教頭会 | 会長  | 阪本 千珠 |
| ② 諸連絡   | 福岡県公立小学校教頭会 | 幹事長 | 岡山 昌司 |

## ごあいさつ

令和5年度 第52回福岡県公立小学校教頭会研究大会・北筑後地区小学校教頭会研究大会が、うきは市からの配信により開催されることを心から感謝申し上げます。

副校長・教頭先生方におかれましては、学校の中心的なリーダーとして学校運営に奔走され、学力向上に向けた授業改善、キャリアステージに応じた人材育成、コミュニティ・スクール等の地域連携等の様々な業務の中でご活躍のことと拝察いたします。

さて、ここ数年、学校においては、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、様々な生活様式や教育活動等に制限を強いられる状況が続いてきました。その新型コロナウイルス感染症も本年度5月に5類に分類され、徐々に以前の生活が戻りつつあります。特に、児童の学校生活の様子に目を向けると、制限や簡略化されていた学校行事や学習内容にも従来通りに取り組むことができるようになりました。児童が友達との関わりや学習の中で生き生きとする姿が増えてきたことは喜ばしいことです。

また、マスクを付けていた日常に変化が現れ、表情によって喜怒哀楽を豊かに表現できることはコミュニケーションを図る上で、とても大切であることを痛感しているところです。

一方、私たち副校長・教頭の職務に目を向けると、G I G Aスクール構想によって、学校教育が大きく変わりつつあることや働き方改革が年々進む状況において、副校長・教頭の職務も不易と流行を意識しつつ、各学校において全ての子供たちの可能性を引き出す「令和の日本型教育」の構築を目指して、取り組む必要があると考えております。

そのような中、全国公立学校教頭会で、第13期全国統一研究主題として「未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり」が提案されました。「未来を切り拓く力」とは、よりよい社会や幸せな人生を積極的に築き上げていくために、自らの個性を発揮し、自信をもって未来を切り拓く力であり、様々な困難な課題に、考え、判断し、積極的に対応する力のことです。「魅力ある学校づくり」とは、子供たちが安心して教育を受け、自らの力を発揮できることはもちろん、保護者や地域住民にも信頼され、愛される「地域とともにある学校づくり」のことです。これらは、副校長・教頭として取り組むべき課題であります。さらに、学校における働き方改革の具現化を図り、教職員の心と体の健康について配慮したり、職場環境の改善をしたりしながら、心理的安全性の高い「魅力ある学校」としての組織づくりに努めていかなければならないと考えます。

福岡県公立小学校教頭会におきましても、県域6地区と政令市2市の各教頭会の皆様のお力をお借りして、第13期全国統一研究主題のもと、令和5年度の研究活動を着実に進め、実りあるものとするべく進めているところです。そして、本研究大会における副校長・教頭先生方の日々の取組を共有することによって、副校長・教頭としての学びの充実、引いては学校教育の充実に繋がる有意義な研究大会になりますことを期待しています。

最後になりましたが、本大会を開催するにあたり、福岡県教育委員会、福岡県公立小学校校長会をはじめ、関係諸機関からのご支援をいただきましたことに深く感謝申し上げますとともに、皆様のご健勝とご活躍を祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。

福岡県公立小学校教頭会 会長 安陪 秀樹  
(那珂川市立岩戸小学校 教頭)

## 令和5年度 第52回福岡県公立小学校教頭会研究大会の開催にあたって

第52回福岡県公立小学校教頭会研究大会の開催にあたり一言ご挨拶を申し上げます。副校長・教頭先生におかれましては、学校運営に奔走され、多忙な日々を過ごされているのではないのでしょうか。

さて、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、昨年度までは教育活動の削減や縮小が求められましたが、本年度5月に5類に移行され、コロナ禍以前の学校生活が戻りつつあります。今まで制限されてきた学習活動や学校行事、地域との交流などにも取り組むことができ、友達や地域の方との関わりの中で生き生きと活動する子供の姿から、制限されたコロナ禍で失われたものを何とか取り戻したいという思いがさらに強くなる一方、コロナ禍を経験して得られた教育活動や業務内容を見直し、新しい学校づくりを進める必要性を改めて痛感しているところです。

本年度の研究テーマにある「未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり」の実現のため、多様でめまぐるしい変化を前向きに受け止め、子供たち自らが置かれた環境や状況と向き合い、様々な課題に対し考え判断し解決していく力を養わなければと考えます。夢や志を持ち可能性に挑戦するために必要となる力を育くむ教育を展開するためにも、子供が安心して学校生活を送ることができる教育環境づくり、そして保護者や地域に信頼される学校づくりなど、重要な責務が私たち副校長・教頭に課せられているのではないのでしょうか。課題は山積みですが、そのような中でも、子供たちも先生たちも行きたくなる「魅力ある学校」「安心できる学校」「支え合う学校」になるよう、私自身が教頭職を笑顔で楽しみたいと思っています。

私たち北筑後地区教頭会は、本年度の研究大会が研究テーマ「未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり」に資する実りのあるものにするため、準備を進めて参りました。今回の研究大会が、子供たちの健やかな成長のみならず私達の日々の業務改善につながれば幸いと存じます。

最後になりましたが、福岡県副知事 生嶋亮介様には、快く講話をお引き受けくださり心より感謝申し上げます。また、研究報告をしてくださる先生方、指導助言をいただきます義務教育課主任指導主事 原クミ様、さらにはご支援を賜りました福岡県教育委員会、うきは市教育委員会、福岡県小学校校長会並びに関係諸団体各位に対し、心より感謝申し上げ挨拶といたします。

北筑後地区小学校教頭会 会長 石橋 篤  
(うきは市立大石小学校 教頭)

# 令和5年度 福岡県公立小学校教頭会活動方針

福岡県公立小学校教頭会は、県域6地区並びに、2政令市の教頭会相互の連絡提携を緊密にし、副校長・教頭職としての研修を深め、本県教育の振興に寄与することを目的としている。

私たち副校長・教頭は、会員相互の研鑽によって自らの職務能力を高め、学校運営の要としてその力を発揮し、学校長とともに公教育として求められる学校づくりを行っていかねばならない。

そこで、本年度は次の方針を重点として活動を推進する。

## 1 研修活動の充実を図る

全国公立学校教頭会及び九州地区公立学校教頭会との連携を図るとともに、県域6地区並びに2政令市教頭会による研究・研修活動の充実を図り、副校長・教頭としての職務能力を高める。

また、このコロナ禍において、オンラインによるリモート研修の実用性が認められるようになった。福岡県公立小学校教頭会でも、研修会の目標を達成させるための方法を模索し、検討していくとともに、オンライン研修等を含め、さらによりよい実施方法や有効性を検証していく一年とする。

(1) 役員会（地区会長会）、理事研修会、研究部長研修会の充実

○ オンライン型研修を効果的に導入・活用する。

(2) 福岡県研究大会の充実（会場：北筑後地区うきは市 令和5年11月14日(火)）

○ 福岡県公立小学校教頭会は会員全員参加（開催方法・参加形態については今後検討していく）

○ 全公教第13期全国統一研究主題「未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり」  
キーワード 「自立・協働・創造」の一年次として、研究活動の充実を図る。

(3) 各地区大会の充実

(4) 全国公立学校教頭会研究大会石川大会、九州ブロック研究大会沖縄大会、全国公立学校教頭会中央研修大会への参加促進（ビデオ視聴による参加型研修を含む）

(5) 各単位教頭会における研修の充実

(6) 県域及び政令市の連携・交流の強化。

事務局と2政令市（福岡市教頭会・北九州市教頭会）代表者との交流会を開催する。

## 2 組織の発展・強化を図る

組織の円滑な運営に努めるとともに、組織発展・充実のための活動を推進する。

(1) 役員・事務局の連携と活動の充実

(2) 県域6地区並びに、2政令市の各教頭会との連携強化と情報の共有

○ 政令市教頭会代表者との連携強化の場の設定

○ 連携強化に係る組織・会則の見直しの検討

(3) 各教育委員会、各教育事務所、県小学校長会、教育関係諸団体との連携強化

(4) 全国公立学校教頭会・九州地区公立学校教頭会との連携

(5) 福岡県公立中学校教頭会との連携

(6) 事務局員の負担軽減や令和9年度九州大会開催に向けて、福岡県公立小学校教頭会のホームページ開設と担当部署の設立

# 令和5年度 福岡県公立小学校教頭会研究要項

## 1 研究主題

『未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり』 <自立・協働・創造> (全国統一研究主題)

## 2 研究の基本目標

第13期の全国統一研究主題において、「未来を切り拓く力」とは、よりよい社会や幸せな人生を積極的に築き上げていくために自らの個性を発揮し、自信をもって自らの未来を自らの手で切り拓く力であり、様々な困難な課題に自ら考え、判断し、積極的に対応する力であると定義されています。特に、人との絆を大事にし、自分の個性を生かしながら自ら考え行動し、他者と協働しながら様々な困難に対応できる力、リーダーシップやチームワークを発揮し新しい価値を生み出す、未来を拓く資質や能力を育成することを引き続き重視、発展させていくものです。これは、「主体的に考え、多様な他者と協働しながら、問題を見だし納得解を生み出すことができる人材」の育成を目指す「福岡県学校教育振興プランの改定の視点」につながる重要なものと考えます。また、学習指導要領の前文にある、「よりよい学校を通して、よりよい社会を創る」という理念を受け、副校長・教頭として「魅力ある学校づくり」に取り組んでいくことが重要であり、キーワードである「自立・協働・創造」は、生涯学習社会の構築を目指すという第3期教育振興基本計画に沿った教育改革の取組を進めていくことを目標としています。福岡で学び育った子どもたちが、国際社会をリードしていく未来を想像した時、「魅力ある学校づくり」を職務とする私たち副校長・教頭の責任とやり甲斐の大きさを感じます。

そこで、本会においても全国統一の研究主題を受け、その達成に向けて副校長・教頭としてのリーダーシップの発揮や職務遂行にあたっての自覚をもち、自らの資質・能力の研鑽等を含め、研究を深めていくことが学校運営を担う副校長・教頭の責務と考えます。

以上のことから、次の3点を研究の目標として設定します。

- 教育理念に基づく学校教育の実現
  - ・特色ある学校づくりを展開し、生きる力を育む学校教育の実現を目指す。
- 副校長・教頭としての力量を高める研究・研修の充実
  - ・広い視野に立って学校運営が行えるよう、学校教育に対する識見を深める。
- 学校の社会的役割の推進
  - ・国民の期待に応える魅力ある豊かな学校づくりを推進する。

## 3 研究の基本方針

### (1) 学校教育の課題の解決に努める。

私たちの研究は、国民の期待に応え、教育基本法及び学校教育法等の諸法規に定められた教育の目標を達成することを究極の目的とする。そのために自ら職能を高め、学校現場が抱えている課題の解決に努める。

### (2) 副校長・教頭の職務内容や職務機能を追求する。

学校運営において副校長・教頭としての関わりを大切にし、その職務内容を実践的に追究するとともに職務機能の充実を図る。

### (3) 研究成果を政策提言活動（要請活動）に生かす。

研究活動と政策提言活動（要請活動）は全国公立学校教頭会の活動の2本柱である。研究の成果を政策提言活動に生かし、教育環境の整備に役立てていくよう努める。

#### 4 研究内容及び研究方法

- (1) 副校長職・教頭職としての研究活動を推進する。
  - ① 福岡県公立小学校教頭会研究大会を開催し、副校長職・教頭職としての資質の向上を図るとともに、研究集録を刊行する。
    - 研究主題は「第13期全国統一研究主題」に基づいて設定する。
    - 各地区は「全国研究課題」に基づき、地区分担にしたがって研究を深める。
  - ② 県内6ブロック、2政令市で地区別に研究大会を開催して研究課題の研究を深める。
  - ③ 第65回全国公立学校教頭会研究大会（石川大会）、第63回九州地区公立学校教頭会研究大会（沖縄大会）に参加し、積極的な提言と意見交換等を行い、研究大会の充実を図る。
  - ④ 県教育委員会及び政令市教育委員会主催の研究会に積極的に参加し、次の世代の教職員の育成を図る。
- (2) 県小学校教頭会の組織・運営及び活動の充実を図る。
  - ① 全国公立学校教頭会及び九州地区公立学校教頭会との連携を密にして組織的に研究を推進する。
  - ② 県小学校教頭会理事会及び研究部長会を開催し、各都市間の交流を深める。
  - ③ 県中学校教頭会との連携を密にして交流を深める。
- (3) 副校長・教頭の職務内容の確立を図るとともに、処遇の改善に努める。
  - ① 副校長・教頭としての明確な職務内容の確立するとともに諸条件の整備に努める。
  - ② 副校長・教頭の待遇改善に努める。
- (4) 教育関係諸団体との密接な連絡・連携を図る。
  - ① 県当局及び県議会、県教育委員会連絡協議会、県小学校校長会との連携を強化する。
  - ② その他の関係団体との連絡調整に務める。
    - ※副校長・教頭に関する諸問題は、県教育委員会と事前に協議を行う。
- (5) 継続性・協働性・関与性に焦点を当てた実践的研究を推進する。
  - ① 継続性・・・組織の改編があっても、問題解決型の研究を継続的に進める。
  - ② 協働性・・・同僚性を発揮しながら、開かれた関係において協働的に研究を進める。
  - ③ 関与性・・・教頭会の課題を勤務校において関わらせ、その成果を教頭会に反映させ研究を進める。
- (6) 全国共通課題を創造的、実践的に進める。
  - 第1課題 教育課程に関する課題（研究の手引 P9）
    - 学校教育の根幹をなす教育課程に関する課題です。教育課程、編成、実施、評価、改善など、多岐にわたる内容を包括しています。新学習指導要領における「社会に開かれた教育課程」の理念の具現化に向けて、副校長、教頭がどのように積極的に取り組んでいくかが大きな課題です。
  - 第2課題 子供の発達に関する課題（研究の手引 P10）
    - 児童生徒の発達を支援するための教育や、将来を見据えた教育課題の発見や対応など、多岐にわたる教育課題をここで取り上げます。
  - 第3課題 教育環境整備に関する課題（研究の手引 P11）
    - 特色ある学校づくりなどを支える環境整備に関する課題です。
  - 第4課題 組織・運営に関する課題（研究の手引 P12）
    - 学校が組織として、有機的な運営や機動的な対応ができるような体制づくりに関わる課題です。
  - 第5課題 教職員の専門性に関する課題（研究の手引 P13）
    - 教職員の資質向上を図るための研修、職務意識の高揚、ミドルリーダーの育成などが課題となります。
  - 第6課題 副校長・教頭の職務内容や職務機能に迫る課題（研究の手引 P14）
    - 副校長・教頭が担うべき職務内容や学校組織における職務機能について、現状をふまえ、あるべき姿に迫る課題です。



# 各学校の「つよみ」をいかした校務運営の在り方

～重点目標の達成に向けたカリキュラム・マネジメントの充実を目指して～

筑紫区小学校副校長・教頭会

筑紫野市立二日市東小学校 教頭 齊藤 宏之

## 1 主題設定の理由

### (1) 各学校の実践より

一昨年度は、主題への取組を三観点（A：教育課程の編成・実施システム B：学校評価システム C：人的又は物的体制の確保・改善システム）から一つを選択し、実践を行った。そこでは、観点を焦点化することで、各学校における研修の成果が明確になった。しかし、三観点はカリキュラム・マネジメントの側面でもあることから、その観点を選択しても取組は結果的に関連することになった。そこで昨年度は、三観点を基本としながら、各学校の実践の幅を確保する考えから組み合わせでの実践も行った。また、合わせて主題・副主題を見直した。

一昨年度： 各学校の重点目標の達成に向けた校務運営の在り方

～学校の「つよみ」をいかしたカリキュラム・マネジメントの充実を目指して～

昨年度・本年度： 各学校の「つよみ」をいかした校務運営の在り方

～重点目標の達成に向けたカリキュラム・マネジメントの充実を目指して～

### (2) カリキュラム・マネジメントより

教育課程の編成に関わるカリキュラム・マネジメントは、指導系列において学校の教育目標や重点目標を達成するために、教育内容や方法を具現化する重要な手立てであり、学校長が示す学校経営の成否を左右する重要な経営行動である。したがって、経営系列にそって、重点目標や経営の重点の内容を具現化していけば、各教室で行われる日常の授業へ校長が示した学校経営要綱の内容が届くのがこの教育課程であり、さらには、学校の教育目標の達成に向けて教育の教育活動が具現化されることになるからである。（参考：「学校経営15の方策（福岡教育センター編）H26」）

また、カリキュラム・マネジメントの取組は、副校長、教頭だけで実施することは困難であり、副校長・教頭と教務担当主幹教諭の協働・連携が必要である。

## 2 研究のねらい（主題の意味）

### (1) 『各学校の「つよみ」をいかす校務運営の在り方』について

#### ① 各学校の「つよみ」とは

各学校において、カリキュラム・マネジメントを推進する上で効果的な特色ある（特色にしたい）人的環境、物的環境、文化的環境のことである。（注）この特色とは、他校と比較して秀でている環境ということではなく、学校内で環境が多く見受けられることやこれから多くしていきたい環境の場合も含まれる。つまり、長所も短所も「つよみ」になり得ると考え、校務運営上これまで以上に伸ばしていくことが期待できる環境のことである

#### ② 各学校の「つよみ」をいかすとは

各学校の特色ある（特色にしたい）人的環境、物的環境、文化的環境を、効果的に活用しながら、副校長、教頭が行う『仕組みづくり』『仕掛けづくり』（※後の項目4(1)にて説明）を位置付けることである。

### ③ 「校務運営」とは

目的（学校の教育目標、もしくは重点目標）を達成するために、校務運営の場面において具体的な役割を果たすことで、『仕組みづくり』や『仕掛けづくり』を副校長、教頭として工夫して実施することである。

○ 校務運営の場面：「a 組織、運営に関すること」、「b 研修、研究に関すること」、「c 予算経理に関すること」、「d 渉外に関すること」

○ 校務運営の役割：「ア 企画・立案」「イ 運営」「ウ 管理」「エ 連絡調整」「オ 指導・支援」といった具体的な職務内容のことである。

→ a、b、c、dそれぞれの場面においてア、イ、ウ、エ、オのどの役割を果たしたのかを考える。

○ 校務運営の工夫

・『仕組みづくり』：組織的・計画的な取り組みを構造的に明らかにするとともに、一人一人の教職員の役割を明確にすることである。

・『仕掛けづくり』：教職員の相互の関わり（相互作用）を生じさせるようにするために、一人一人の教職員の役割を明確にすることである。

<平成31年度改訂「活用ある学校運営の手引き」福岡県教育委員会 『5 副校長・教頭の職務と校務運営 ②教頭の職務 イ 校務を整理する』より、4つの職務内容を引用>

## (2) 『重点目標の達成に向けたカリキュラム・マネジメントの充実』について

### ① 重点目標について

1年を通して子どもを年度内にここまで変容させようとする目標である。1年の学校経営の成果を見る指標である。

また、小学校学習指導要領解説 総則編（P48～52）において、「重点目標は教科等横断的な視点から設定されるべきであり、以下の二つから考えられる」と示されている。

- 学習の基盤となる資質・能力
- 現代的な諸問題に対応して求められる資質・能力

### ② カリキュラム・マネジメントの充実について

カリキュラム・マネジメントは、指導系列において学校の教育目標や重点目標を達成するための教育内容や方法を具現化する重要な手立てであり、校長が示す学校経営の成否を左右する重要な経営行動である。これらより、重点目標の達成のために、カリキュラム・マネジメントをどう充実させていくかは、各学校において、主幹教諭を中心としながら企画、立案しているところである。

実施の中で、カリキュラム・マネジメントをどう行なっているのかは主幹教諭にどう見取りを發揮させているかであり、それについての指示・指導については教頭の役割である。

カリキュラム・マネジメントを推進するための『仕組みづくり』『仕掛けづくり』は教頭の役割であり、まず、そのシステムをどう作り、誰を使って、どのようにカリキュラム・マネジメントにかかわらせるように仕掛けているのか、工夫を示していくことが、教頭としてのカリキュラム・マネジメントの充実にあたりと考えられる。

また、「カリキュラム・マネジメントの充実」について、小学校学習指導要領解説 総則編（P39）に次のように示されている。

- ・児童や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと
- ・教育課程の実施状況を評価して、その改善を図っていくこと
- ・教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保数とともにその改善を図っていくことなどを通して、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと

### 3 研究の実際

#### (1) 各校のつよみをいかす効果的な校務運営に向けて取り入れた観点

筑紫野市は、小規模校から大規模校まで様々な規模の小学校があり、それぞれ「つよみ」が異なっている。人権・同和教育をはじめ、さまざまな教育に学校の実態を踏まえ、各校で観点を選択し、特色あるカリキュラム・マネジメントを展開している。

観点	<b>B 学校評価システム</b>
学校	二日市東小学校、原田小学校、天拝小学校
観点	<b>C 人的または物的な体制の確保・改善システム</b>
学校	二日市小学校、吉木小学校、阿志岐小学校、山家小学校、筑紫小学校、二日市北小学校、筑紫東小学校
観点	<b>A 教育課程の編成・実施システム + C 人的または物的な体制の確保・改善システム</b>
学校	山口小学校

#### (2) 特徴的な取り組み

二日市東小学校はB 学校評価システム、二日市小学校はC 人物又は物的な体制の確保・改善システム、山口小学校はA 教育課程の編成・実施システムとC 人物又は物的な体制の確保・改善システムの組み合わせとといったように各校（地域）の実態や特色を生かし、「つよみ」を活用したカリキュラム・マネジメントが展開されている。

#### ① 筑紫野市立二日市東小学校の具体的な取組

本校は、児童数が 1100 人を超える大規模校であり、職員の数も多く、一人一人が学校の一員として意識を持った取り組みを推進するためには、方策が必要である。そこで、学校評価システムに関わる取り組みとして、「校務分掌、学年・学級経営の評価を重点目標から実施すること」と「評価に基づき、重点目標達成に向けた指導・支援を実施すること」の2点を柱に1年間実践を行った。年度初めは重点目標を踏まえた項目を位置付けた自己評価表（資料1）を作成することで組織の一員としての意識と意欲を持たせた。また組織運営の人材育成

学校教育目標	今も未来もしあわせな子供の育成	
本年度重点目標	具体的目標	学年の目標
「応答・なんとかなる・健康な生活」の充実		
評価項目	成果指標	具体的方策
【子供のしあわせづくり】 「あるがままに・やってみよう・なんとかなる・ありがとう」の浸透と充実		
【応答】 ICTを用いて見方・考え方を働かせる表現をやりとりする子供の育成		
【なんとかなる】 やればよくなる・過程（工夫・努力）を楽しむ心構えをもつ子供の育成		
【健康な生活】 新しい生活様式を日常的に実践する子供の育成		
組織の一員として		
人材育成として		
機能成長のために		

【資料1 自己評価表の項目】

という観点から、内容面や運営面でサポートする育成部長会議を設定した。1年間を通して、各校務分掌組織を円滑に運営、先生方が、意識と意欲をもって取り組めるよう、面談を適切に行った。育成部長を育成しながら教育活動を推進するために、1か月をサイクルとして、重点目標達成に向けた取組の具体化を図る『育成部長会』の運営を行った。育成部長会を毎月、定例開催し、事前に月ごとの具体的取組の達成状況及びリーダーシップの発揮度について省察させ、短期的な取組の改善と、中長期的な取組の両面から展望を描くことができるようにした。取組の共有化・管理職の評価・改善策の検討の3つの柱から会を進行することより、参画意識の向上を育成部長に感じる事ができた。年間を通して、評価と指導・支援を計画的に実施することで、成果と課題を個人や組織で明らかにし、次年度への意欲へとつなげることができた。

#### ② 筑紫野市立二日市小学校の具体的な取組

本校では「人的又は物的な体制の確保・改善のシステム」の構築を目指して「チーム学年としての取組の充実」「学年OJTとしての取組の充実」の2点を重点的な取組として実践した。年度初めに、学年チームの取組として交換授業、児童半数入れ替え交換授業、全学級シャッフル交換授業、配信授業（資料2）の4つの計画を立てた。その際、学年主任が一人で抱え込まないこと、担外教員を割り当てること、学年の発達段階や状況に合わせて実施することを配慮事項とした。また、学年OJTの取組として、勤務時間内の若年教員育成方法考えた校内OJT、現在・未来を見据えた若年教員学年主任及びネクスト学年主任制度の2つを推

進していくこととした。年度中の取組としては、交換授業・配信授業をスクリーンのような留意点にそれぞれの学年が気を付けながら実施していった。第2学年の算数科の配信授業では、3時間計画で、3人の担任が、配信をする全体指導、机間指導、個別指導を1時間ずつ担当し学習を進めていった。その際、担外を割り当てることで、机間指導、個別指導についても、教師不在の学級を出すことなく進めることができた。年度末の取組としては、今回の学年チームの取組・学年OJTの取組の分析を実施した。教師側のよさとしては、多様な児童のよさの発見、先輩教員との協働教材研究、授業づくりのよさ、他学級の学級経営についての学び、迅速な児童の変化の見取りや対応があげられた。児童側のよさとしては、人間関係が固定しないこと、多様な教員からの承認・賞賛が得られることがあげられた。



### ③ 筑紫野市立山口小学校の具体的な取組

【資料2 配信授業の様子】

本校は、古くから地域と共にある教育活動を展開しており、住民にも「地域の学校」という意識が高い。関わりをもとうという意欲にあふれた人がいることやこれまでの教育活動の積み上げから、地域人材を生かした生活科・総合的な学習の時間は充実し、活用の方法はシステム化されている。一方で、「これまで通り」のやり方を踏襲することで子どもが自ら考える場や、失敗から学ぶ場の保障ができにくいという課題があった。そこで、まず、担任に、身に付けさせたい資質・能力を分析させ、コロナ禍でもできる実践計画を作成させた（資料3）。

次に、地域人材との打合せを、管理職で行うことにし、これまでの課題から、改善点に触れながら支援のお願いをした。学校が望むことと地域人材の思いをすり合わせる作業を管理職が行ったことで、職員

月	1年	2年	3年	4年	5年	6年
	生活科		総合的な学習の時間(みのり学習)			
5			山口、花いっぱい運動 「ぼくらの校区へGO!!」 …学習支援ボランティア活用			
6	「うめぼしめいじんになろう」 梅らざり …地域人材活用			「名産、ショウガでしようが」 植え付け…地域人材活用	「コマ、コマ大作戦」 田植え…地域人材活用	「筑紫野市、不思議、発見」 ～五郎山古墳の秘密～ …学習支援ボランティア活用
7	「うめぼしめいじんになろう」 梅干し漬 …地域人材活用					
11		「山口みそをつくらう」 味噌仕込み…地域人材活用 「町たんけん」 …地域人材活用		「名産、ショウガでしようが」 収穫…地域人材活用	「コマ、コマ大作戦」 稲刈り…地域人材活用	
12					「コマ、コマ大作戦」 餅つき…地域行事	
2			山口、花いっぱい運動II			

【資料3 生活科・総合的な学習の時間年間計画一覧】

### ④ 筑紫野市部会における取り組みの成果と今後の課題

成果は、「校務分掌の組織を見直し、主務者に明確な役割を示すことにより、主務者の校務運営への参画意識が向上し、さらに管理職による指示や支援・評価等の働きかけにより、効果的に職員全体で教育活動を行うことができた。」である。今後の課題は、「児童一人一人の実態に即した効率的・効果的な教育課程の創造」「全教職員のカリキュラム・マネジメントに関わる意識向上、校内組織内における研修の充実」の2点である。

## 4 筑紫区小学校副校長・教頭会における取組の成果と今後の課題

### (1) 成果

- ① 各校の特色特徴を「つよみ」として捉えなおし、仕組みづくり・仕掛けづくりを行うことで、各校の「つよみ」をいかした校務運営を行うことができた。
- ② 三観点の選択に幅を持たせたことで、重点目標の達成に向けたカリキュラム・マネジメントの充実につながった。

### (2) 課題

- ① 3つの観点から、さらに「つよみ」をいかせるような仕組みづくり・仕掛けづくりの実施

# 児童の自己肯定感を高める教育活動の工夫

～教職員の参画意識を高める教頭のかかわりを通して～

朝倉郡小学校教頭会

朝倉郡筑前町立中牟田小学校 教頭 山下 冊

## 1 主題設定の理由

朝倉郡内には、東峰村に1校、筑前町に4校、計5校の小学校がある。郡内各小学校は、学校規模、学校形態等はそれぞれではあるが、共通した児童に関する課題は「自己肯定感の向上」である。

学校の教育活動を通じて自己肯定感を高めるためには、日常の授業における「指導方法の工夫」を中心に、授業以外のさまざまな諸活動を、年間を通じて意図的・計画的に行うことが大切である。そのため、教職員には「児童の自己肯定感を高める」という共通認識をもち、協働的に実践していくことが求められる。

朝倉郡では、これまでも、児童の自己肯定感を高めるための実践に取り組んできている。しかし、「例年通り」として継続している実践も少なくはなく、実施方法を見直す必要性を感じている。

そこで、自己肯定感を高めるために新しい取組を始めるのではなく、現在、各学校で実践している授業を含む諸活動を「児童の自己肯定感を高める」という視点で見直し、全職員での意図的・計画的な取組へとつなぐような、協働的な組織体制づくりが大切であると考え、本研究主題を設定した。このような協働的な体制を構築することは、かかわり合う教職員集団をつくることであり、人材育成の視点からも意義深い。

## 2 研究のねらい

児童の自己肯定感を高める教育活動を推進するために、各校の教職員一人ひとりが納得・共感した上で、共通実践、協働実践として取り組むことができるようにするための教頭のかかわり方を明らかにする。

## 3 研究の概要

児童の自己肯定感を高める教育活動の工夫については、次の2点から取り組む。

### (1) 授業における指導方法の工夫

児童が、「できた」「わかった」と実感できたり、他者とかかわりながら学ぶことのよさや楽しさを感じたりできるよう工夫する。

### (2) 異年齢集団による諸活動の工夫

郡内の全小学校では、縦割り班活動を中心とした「異年齢集団での活動」の実践を続けてきた。これらの活動を、児童が「関わる喜び」を感じ、その思いを「自信や誇りをもつ」、「あこがれを抱く」ことへつなぐことができるよう、工夫する。

また、教職員が納得・共感し、やりがいを感じながら、組織的に実践できるようにするための、副校長・教頭のかかわりは以下の通りである。

- ① **教頭とチーフで（ともに考える）：納得** ポイント：「必然性」「実践意欲」
- ・重点目標から見た児童の実態を共有
  - ・めざす子どもの姿について協議
  - ・要因と今後の方向性について検討 ※ 協議の中で担当者に気づかせる（引き出す）
- ② **チーフと部員で（見守る）：協働** ポイント：「実践意欲」「責任感」
- ・チーフを中心に、活動内容を部内で協議 アイデアを出し合い、練り上げることを重視
  - ・分担やスケジュール等の決定
- ※ 教頭は見守りに徹し、各部に任せる。一方で、進捗状況は細かに確認し、チーフへの助言を行う。
- ③-1 **教頭と実働者で（価値づける）：達成感** ポイント：「達成感」「希望」
- ・具体的な子どもの姿を価値づけ
  - ・ねぎらいと賞賛、感謝
- ③-2 **教頭とチーフで（価値づける）：達成感** ポイント：「達成感」「今後の見通し」
- ・具体的な教師の姿を価値づけ
  - ・ねぎらいと賞賛、感謝

## 4 研究の実際

### (1) 授業における指導方法の工夫 【A校の実践】中規模校

A校では、主題研究として「問題解決型の授業スタイル（A校スタイル）」の実践に取り組んでいる。今回は、自己肯定感を高める授業づくり、つまり「わかった、できた」を実感できる授業づくりのために、「自分の考えをもつ」、「学びをふり返る」段階を工夫した実践について報告する。

#### ①ともに考える

各種調査結果をもとに、研究主任と教頭で、授業改善の方向性について話し合い、A校スタイルの中の「考えをもつ」と「ふり返る」段階を重点的に見直すことを確認した。

#### ②見守る

A校では、主題研究への主体的な参加のために、全職員が4つの部のいずれかに所属し、小グループでの協議・実践を行っている。研究主任から、上記の協議内容を各部のチーフへ提案し、各部での協議を経て、全体で「つまずきへの支援」と「ふり返りの充実」を重視するという今後の方向性を確認した。「つまずきへの支援」のための見取りについては、「授業づくり部」からいくつかの取組例を提示し、学年の実態から選択して取り組むようにした。「ふり返りの充実」については、発達段階に応じて内容と方法から記述させることになった。

取組状況や進捗状況については、教室訪問や運営委員会等で情報を集め、研究主任への助言を行った。

#### ③価値づける

各部から提案された内容の効果については、実際の授業における子どもの姿で価値づけることを意識した。そのために、学年と教科を絞り、約2ヶ月、教頭がT2として5年生の算数の授業に参加した。担任には、中休みや昼休み等の短時間を利用して、子どものつぶやきや記述内容等、具体的な姿を挙げながら本日の授業のよさ、さらに工夫できそうな所についての助言を行った。5年生では、①本時前につまずきを予測し見通しをもって机間指導を行ったこと、②記述によるふり返りを行い、記述内容を次時の机間指導に役立てたこと、③ペア交流を「学び合い」と位置づけたこと等で、児童が「できた・わかった」と実感したり、他者とかかわりながら学ぶことのよさや楽しさを感じたりする姿が見られ、担任も授業改善の手応えを感じていた。

## (2) 異年齢集団による諸活動の工夫

### 【B校の実践】中規模校

B校では、年間を通して様々な「異年齢集団での活動」を実施している。今回は特に、6、10月に実施している図書委員会が主催の「なかよし読書」の実践について報告する。「なかよし読書」とは、縦割り班を生かし、ペア学年を作り、その上学年側が下学年側に本の読み聞かせを行う取組である。

#### ①ともに考える

「交流の方法」と「場づくり」を意識した取組にするよう、各担当の主任と確認していった。特に高学年が活躍できる工夫や全員が落ち着いて話を聞ける場などを重視していくよう話をした。

#### ②見守る

各担当が、共有した「交流の方法」「場」のことを元に、部等の教職員や児童とともに新たな方策を考え、提案していくようにした。縦割り班清掃では、以前より班数を増やすことで、班の人数を減らすこととなり、児童間の接触する機会を減らすと同時に、6年生のリーダーシップを発揮できる場の増加という効果が見えてきた。図書委員会主催の「なかよし読書」は、今回初めての試みとして、委員会担当教員と児童で考えたものである。縦割り班を活用し、1年6年、2年5年、3年4年をペアとし、第1回目は、上学年が本を読み、下学年で聞くように実施した。初めての取組に戸惑う児童もいたが、下学年のためにと取組以前の休み時間に音読の練習する上学年の姿が多く見られた。

#### ③価値づける

実施した取組について、教頭自ら見に行くと共に、定例部会での振り返りを意識した。その中で、縦割り掃除では、変更したことで、6年生がリーダーシップを発揮する場の増加の良さの賞賛と、今後5年生への引継ぎを意識した取組になると、さらに良い取組になるのではと助言した。また、「なかよし読書」は温かい空気感に包まれるよい取組であったと他の教員からも賞賛があった。その良さの継続と場所が廊下等を使用する班があったので、場の検討について助言を行った。その結果、10月はあえて下学年が上学年への読み聞かせとし、場の工夫も改善して行うことができた。

### 【C校の実践】小規模校

C校では、以前から縦割り班活動を中心とした異年齢集団での活動を多くの場面で取り入れており、教頭は、心づくり部チーフや行事ごとの各担当とともに考え、実践を見守り、価値づけを行っている。

特に、縦割り班活動を中心に据えた特徴的な取組であるセカンドスクールについて報告する。セカンドスクールの概要は右の通りである。

#### ①ともに考える

各チーフと取組の目的と見通しを確認した。準備、当日、振り返りまでのイメージを共有し、職員の動きと子どもの動きが分かる提案を行うよう助言した。

#### ②見守る

特に準備段階では、各教職員の主体性を大事にしながらか見守り、進捗状況を把握、肯定的な評価を中心

に即時的なフィードバックを心がけた。例えば、心づくり部が提案し、この行事に向けて行った班の旗づくりでは、子どものアイデアを生かした各班担当教諭による指導のよさを直接担当者へ伝え、こ

期日	令和4年10月4日(火)～5日(水)
場所	国立夜須高原少年自然の家
概要	1日目 野外調理 野外活動 2日目 フィールドビンゴ 4年生以上は宿泊、1～3年生は、二日間バスで通う。初日の野外調理、野外活動、二日目のフィールドビンゴは、縦割り班で活動する。

【資料1：セカンドスクールの概要】

のことをチーフとも共有した。子どもの意欲、教職員の士気も上がり、学校全体がセカンドスクールに向けて盛り上がるきっかけとなった。

### ③ 価値づける

当日は、雨天プログラムとなったが、担当者が事前準備を細やかに行っていたため、子ども達にとって大変満足のいく二日間となった。各担当者の入念な準備と当日の指導、チーフのマネジメントを価値づけ、この取組を終えた。学期末評価では、教職員の参画意識の項目で顕著な高まりが見られた。

#### 【D校の実践】小中一貫校

小中一貫校であるD校は、小・中学生での縦割り班を編制し、年間を通してさまざまな異年齢集団活動に取り組んでいる。今回は、教師の支援の在り方を見直した運動会全校表現に向けた縦割り班練習活動について報告する。

#### ① とともに考える

チーフとこれまでの縦割り班活動の課題を共有し、その要因を探った。縦割り班の各担当教師が直接児童生徒に指導するため、上学年児童生徒の出番が少なくなっているということが明らかになった。

#### ② 見守る

上記の要因を改善するための活動や教師の関わりについて「心づくり」部で検討し、職員会議で右のように提案された。

特に、運動会全校表現担当教師からは、この運動会全校表現の練習では、9年生が練習を進めるから教師は、見守ってほしいことを強調した。

〈教師の支援〉

- ・上学年に、まずやらせる。(見守る)
- ・生徒自らに自分の課題を把握させる。(指導)
- ・上学年の行動を称賛する。(価値づけ)
- ・振り返りをさせる。(充実感・満足感の醸成)

【資料2：教師の支援について】

#### ③ 価値づける

練習では、9年生を中心とした上学年が、下学年に指示を出して動き方を教えたり、一緒に踊ったりして活動を進めた。しかし、積極的に関わることができなかつた面があったため、活動後担当が上学年生徒に、下学年があこがれるような行動ができていたか、今後どのような関わりをしていくかなどを指導した。副校長として、その指導の場を見守り、下記3点の推進の価値づけ・称賛を行った。

- ・全職員で教師の姿勢を確認したこと
- ・失敗するかもしれないけれども上学年に任せたこと
- ・活動後に即全体指導をしたこと

この後、生徒の意識が変わり、いろいろな場で主体性を発揮した。教師が「転ばぬ先の杖」ではなく、見守る姿勢をとること、失敗から学ばせることの価値を全職員で共有し、次の縦割り班活動へと引き継いだ。

## 5 成果と課題

- 児童の自己肯定感を高めることを意識して従来の教育活動を見直し工夫したことで、児童の自己肯定感の向上が見られた。
- 児童の自己肯定感を高めるという目的や活動を工夫することの必要性等を共有した上で実践したこと、工夫による効果を実感できるように具体的な子どもの姿をもとに評価したりねぎらったりしたことで、教職員の参画意識に高まりが見られた。
- 教育活動を通してめざす子どもの姿、教師の姿をさらに明確化し、評価を数値化することで、今後の組織マネジメントに活かしていくこと。



# 柳川を愛する子どもの育成に向けた柳川市共通実践項目の取組

～GIGAスクール構想の推進のための教頭の働きかけを通して～

柳川市小学校教頭会

柳川市立豊原小学校 教頭 松中 好江

## 1 主題設定の理由

### (1) 教育の動向から

グローバル化の進展や人工知能の進化など、子供たちを取り巻く社会情勢は急速に変化している。学校現場でもGIGAスクール構想の推進が図られ、一人一台のタブレット端末や電子黒板等のICT機器も整備されている。今後、全国学力・学習状況調査をはじめとするCBTの導入も本格的に開始される。これらの状況を踏まえ、学校運営や日々の授業の中でのICT活用は不可欠でありその活用能力を向上させていくことは柳川市においても喫緊の課題となっている。

### (2) 柳川市共通実践の具体的構想から

柳川市では、めざす子ども像を「柳川が大好きな子ども」とし、「確かな学力」の基盤に立って「ふるさとを愛する心」と「社会の変化に対応できる力」の育成を行っている。校長会、教頭会、主幹教諭会で取り組む共通実践項目を明確にし、各小中学校で具体化しながら実践を行っている【資料1】。

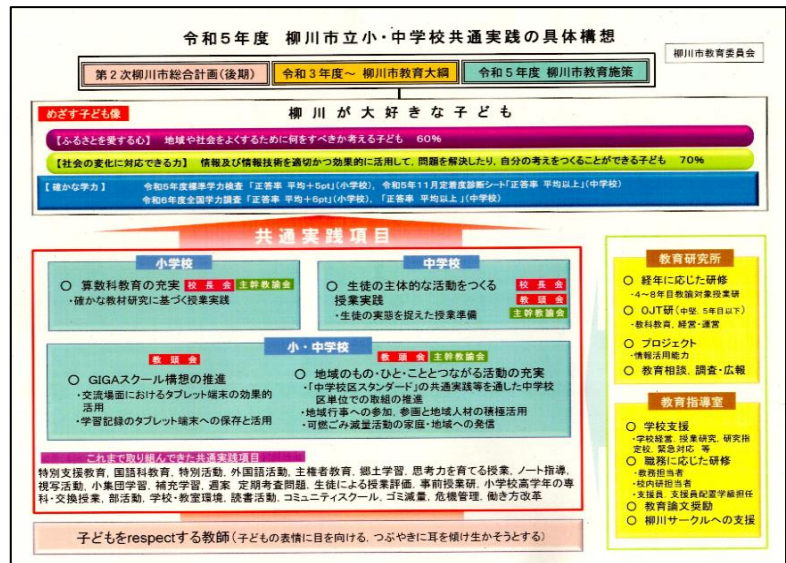
本年度、教頭会の重点的な取組は、「GIGAスクール構想の推進」である。このことを通して、情報活用能力をつけ「確かな学力」と共に「社会の変化に対応できる力」を育成していく。

これらのことは、第13期全国研究主題の第3課題「教育環境整備に関する課題」にある「教育の情報化に関すること」にも関連するものである。

### (3) 柳川市小学校教頭会の研究の経過から

柳川市教頭会では、昨年度に「GIGAスクール構想の実践化」において教頭の働きかけの有効性を究明し、各学校の実践を報告し合い活用できるようにした。

本年度は、これまでの研究の成果を生かしながら、喫緊の課題である「GIGAスクール構想の推進」に重点をおき、各学校で実践できるように具体化していくようにしている【資料2】。



【資料1 柳川市立小・中学校共通実践の具体的構想】

共通実践を通して、教頭がスクールリーダーとして組織運営のマネジメントを図ることで、各学校の教師の指導力を向上させていく。このことは、柳川市の教育目標を達成していくことに繋がると考える。

## 2 研究のねらい

教頭会において柳川市共通実践項目の取組であるGIGAスクール構想の推進を行う中で、効果的な組織運営の機能化を図る教頭の役割を究明する。

## 3 研究の実際

### (1) 柳川市教頭会における取組

#### ○ 共通実践の設定

昨年度に作成した各学校の実践集をもとに、各中学校区において共通実践を設定し、取組を進めていった。その中で明らかになった課題について協議を行い、柳川市全体の小学校で3つの取組を行っていくこととした。

#### 【課題】

- ・教師の電子黒板やタブレット端末のICT機器の活用能力向上を図る体制作りが必要である。
- ・子供たちのICT活用能力の指標を明確にし、基本的な操作方法を定着させていく体制作りが必要である。

#### 【取組】

#### ① ICTを活用した授業のデータベース化

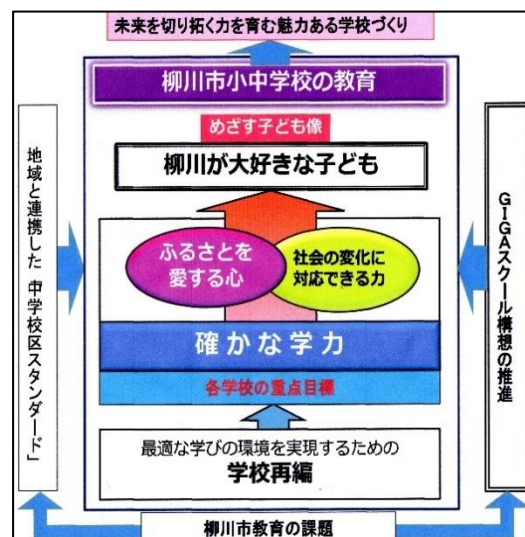
学習支援システムや電子黒板、タブレット端末を効果的に使った学習の指導案や授業の様子を柳川市の共有フォルダに格納し、担任がいつでも授業づくりの参考にできるようにする。

#### ② ICT育成指標の作成と実施

大和中学校区で活用を進めていたICT育成指標【資料3】を共有し、確実な実施を行うようにする。

#### ③ タイピング能力向上のための場の設定

タイピング能力の目標「1分間に10字×学年」を設定し、3回のタイピングテストを行う。



【資料2 研究構想図】

### (2) 各学校における取組

#### ① 教師の指導力向上に向けた教頭の働きかけ

#### ○ 情報教育推進部における組織運営

各学校の校務分掌に情報教育推進部を設置し、情報教育推進担当を選定した。担当はICT活用能力が高い若年教員とし、役割の内容や運営方法等の指導助言を行っていった。

		項目	1	2	3	4	5	6
基本 操作	低	ペン機能で絵や文字をかきこんだり、スタンプをうったりすることができる。 タブレットのカメラで①写真をとる、②写真を保存する、③写真を確認することができる。						
	中	ローマ字表を見ながらローマ字入力ができる。 挿入した画像ファイルの大きさを変えたり、トリミングしたりできる。						
	高	ローマ字入力して正しい漢字に変換できる。 デジタルカメラなどのデータの取り込みができる。						
	中高	1分当たり、学年×10文字を入力することができる。						

【資料3 育成指標（一部抜粋）】

### 【情報教育推進担当の役割】

- ・情報教育の年間計画
- ・育成指標の確認と評価の時期等の設定
- ・校内研修への位置づけ
- ・ICTサポーター活用計画 等

※主幹教諭、学力向上コーディネーターとの連携を図っていくように助言する。

#### ○ ICT活用能力向上のための研修の充実

校内研修では、情報教育推進担当を中心にICT機器の使い方、授業での活用方法等を電子黒板やタブレット端末を操作しながら実践できるようにした【資料4】。また、授業研究では、ICTの活用場面や方法が効果的だったのかを検討し、次に生かすことができるようにしている。



【資料4 校内研修の様子】

校外研修では、福岡県教育委員会や柳川市教育委員会主催の研修会や研究発表会等に若年教員を中心に参加させ、実際に体験して学ぶ、見て学ぶ機会を多く設定した。研修会等で学んだことは必ず学校に還元できるよう校内研修や日常の授業で報告、実践するようにした。

#### ○ ICTを活用した授業のデータベースを活用した授業づくり

効果的なICT活用法を知るためにデータベースを周知し、授業づくりに生かすようにした。苦手な教員は、積極的に情報教育推進担当や授業者に使い方等を学びに行く姿が見られた。



【資料5 授業の様子】

#### 【活用例】

#### 【資料5】

- ・発表ノート

自分の考えを書き説明する場面でのノートの配布・提出

- ・ポジショニング
- ・プレゼンテーション

### ② 子どものICT活用能力向上に向けた教頭の働きかけ

#### ○ ICT育成指標「めざせICTの達人」の活用

柳川市共通の育成指標を提示し、子供たちの活用能力のゴール像を共通理解するようにした。評価を記入する時期を設定し、確実な実施を行うように情報教育推進担当に指示した。その後、授業を参観して活用状況や定着度を確認、評価していった。

#### 【実施の具体例】

- ・ICT育成指標「めざせICTの達人」の配布  
子供：カードに記入後アンケート入力【資料6】  
教師：アンケート結果をもとにした授業改善

- ・定期的な育成指標への記入

#### ○ タイピング能力向上のための「タイピング柳川カップ」

タイピング能力を向上させるためには、日常の積み重ねが必要であるため、「タイピング柳川カップ」において「1分間に10字×学年」という目標をもたせ、練習の時間やアプリの設定を情報教育推進担当と協議し実施していくようにした。

### めざせICTの達人

#### 基本操作

1. 機器を大切に扱うことができる。

○  
 ×

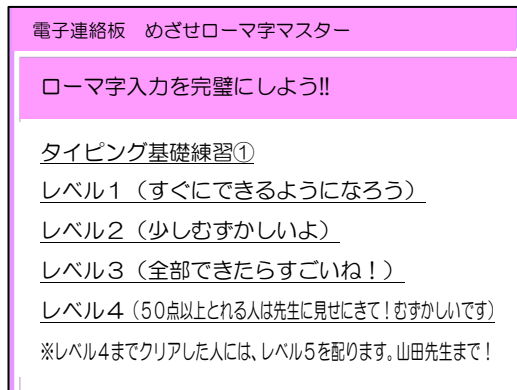
2. タブレットを正しく持ち運び、電源を入れたりシャットダウンしたりができる。電源コードにさし、充電をした状態でケースへの片付けが正しくできる。

○  
 ×

【資料6 アンケート入力画面】

### 【実施の具体例】

- ・時間（10分）  
朝の学習時間（毎日）、スキルタイム（週1回）
- ・練習アプリ  
子供たち自身のレベルに合わせて自己選択できるように練習アプリを精選して作成【資料7】
- ・「タイピング柳川カップ」の実施  
記録は子供が teams アンケート入力  
教師は達成状況をデータで把握



【資料7 練習アプリ】

### (3) 環境整備及び関係機関との連携

#### ○ 柳川市教育研究所との連携

柳川市教育研究所に取組についての協力を依頼した。

#### 【依頼内容】

- ・ICT機器の整備（修理、貸出、デジタル教科書等の格納）
- ・GIGAスクール構想プロジェクトにおける授業研究の資料提供
- ・各学校の授業研究における効果的なICT活用についての指導助言

#### ○ ICTサポーターの活用

柳川市では、3人のICTサポーターが配置され、学校の状況に応じて様々な支援を行っている。校内で必要な支援計画を立てて依頼し、効果的な活用ができるようにしている。【資料8、9】

ICT支援内容依頼書				
学校名	柳川市立 豊原小学校			
日付	時間	クラス	担当者	支援内容
9/27	9:00~10:15	4年	松岡	Skymenuのフォルダ作成
	10:15~10:35	くすのき	浦	タブレットの不具合点検
	10:35~11:20	1年	田中	タイピングのローマ字入力の支援
	11:25~12:00	1年	田中	Skymenuを使った授業支援 (カメラ機能) Skymenuを使った授業支援 (発表ノートの配布・提出)

【資料8 支援計画】

#### 【支援内容例】

- ・子供たちのタブレット端末操作の補助
- ・校内研修において活用方法等の指導助言
- ・学習に有効なアプリの紹介



【資料9 学習支援】

### 4 取組の成果と今後の課題

#### (1) 成果

- ① 教頭会を中心にGIGAスクール構想の推進のために、具体的な取組を共通実践していったことで、各学校における教師の意識も高まり、活用の頻度が増えた。それに伴い、教師も子供たちも活用能力の向上が見え始めている。
- ② 教頭会での情報共有、アンケート集約等のCBT化を行ったため、各学校における教頭の働きかけが明確となり、組織的に運営することができるようになってきている。

#### (2) 今後の課題

- ① より効果的なICTの活用を推進していくための情報収集や体制づくりの検討をしていく。
- ② 教頭会での共通理解をさらに深め、学校化を図っていくための方策を協議し実践していく。

---

---

講 評

福岡県教育庁教育振興部義務教育課 主任指導主事 原 クミ 様

---

---

---

---

**講演**「管理職としての心構え ～危機管理の視点から～」

福岡県副知事 生嶋 亮介 様

---

---

令和5年度 第52回 福岡県公立小学校教頭会研究大会  
北筑後地区小学校教頭会研究大会

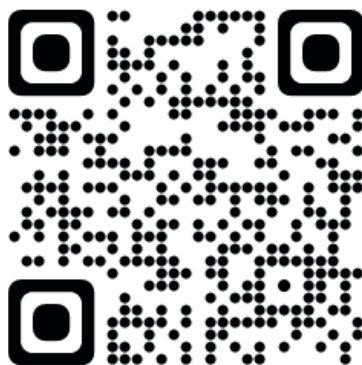
## アンケートのお願い

研究大会にご参加いただきありがとうございます。

下記の二次元バーコードより、G o o g l eフォームでアンケートにご回答ください。

次回開催へつなげるためにも、皆様のご意見・ご感想を賜りたく、  
是非とも、ご協力をお願いいたします。

なお、アンケートへのご回答をもって、出席確認とさせていただきます。



<https://forms.gle/URwnhCJni9r6Hadt7>

恐れ入りますが、11月17日（金）までにご回答をよろしくお願いいたします。